



サマ 北太平洋 平成30年度資源評価結果

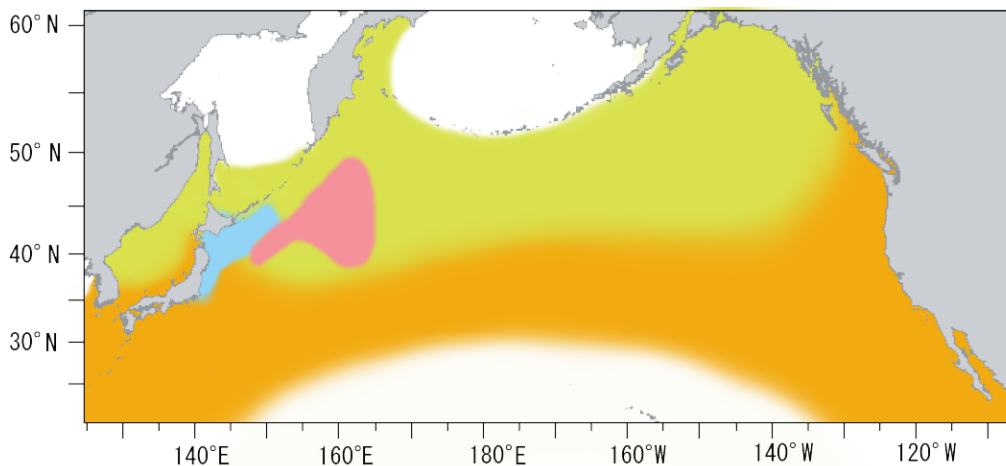
1

サマ 北太平洋 平成30年度資源評価結果

サマ北太平洋の生活史と
漁場形成模式図

生物学的特性

- 寿命 : 2年(0歳と1歳魚)
- 成熟 : 一部は0歳魚で産卵
- 産卵 : 主に冬季
- 索餌 : 夏季の北太平洋
- 食性 : 動物プランクトン
- 捕食者 : 大型魚類・海鳥

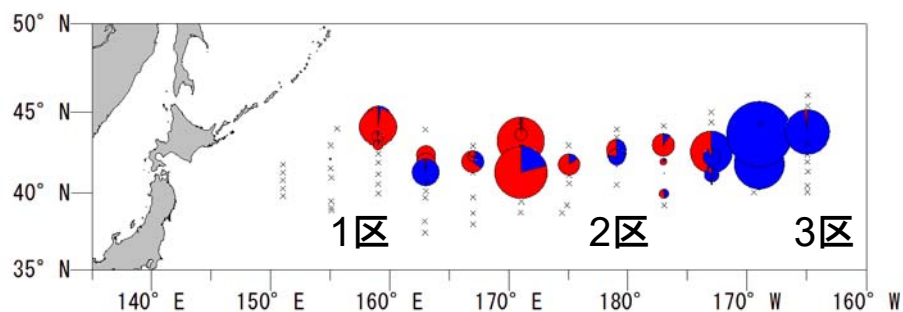


- 索餌場(夏季)
- 産卵場・生育場(冬季)
- 日本漁船の漁場(秋季)
- 外国船の公海漁場

2

資源量の推定方法(日本における手法)

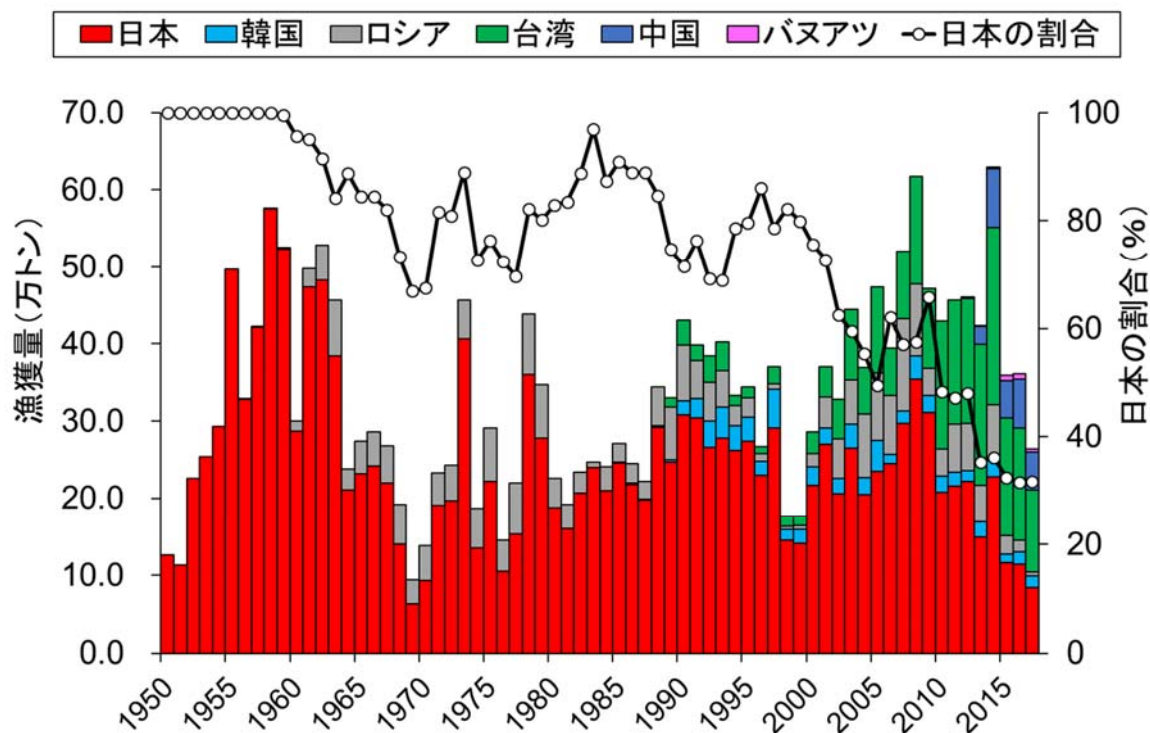
- 6~7月の調査船による分布調査(2003年以降)
表層トロールで実施、面積密度法で資源量を推定
- 漁船のCPUE(標準化CPUE)をもとに長期的な資源量の相対的推移を把握



※上記の2手法による資源量の変化(定量的・相対的)をもとに
NPFCにおいて国際的資源評価に向けて取り組んでいる

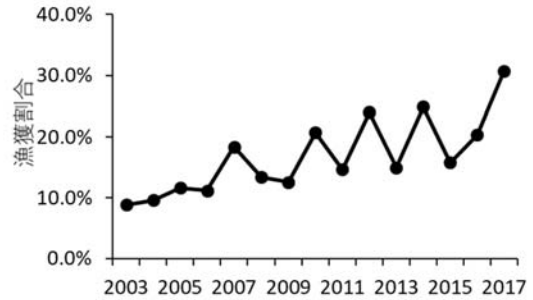
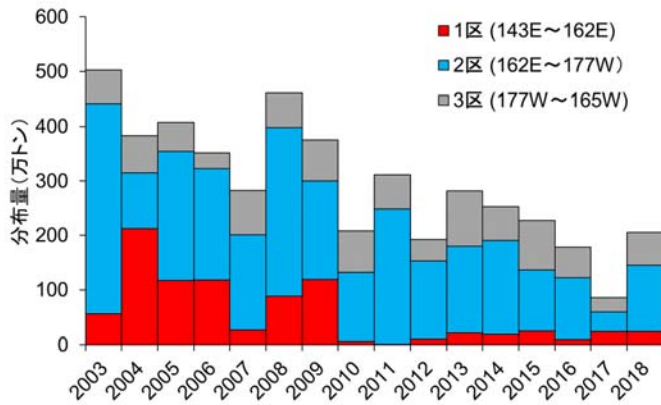
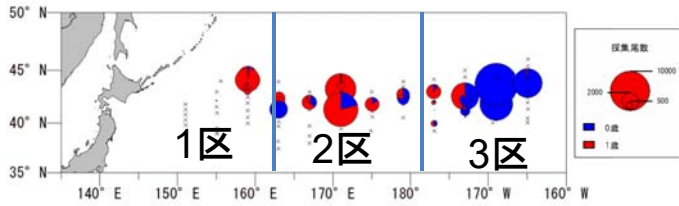
3

各国の漁獲量の推移



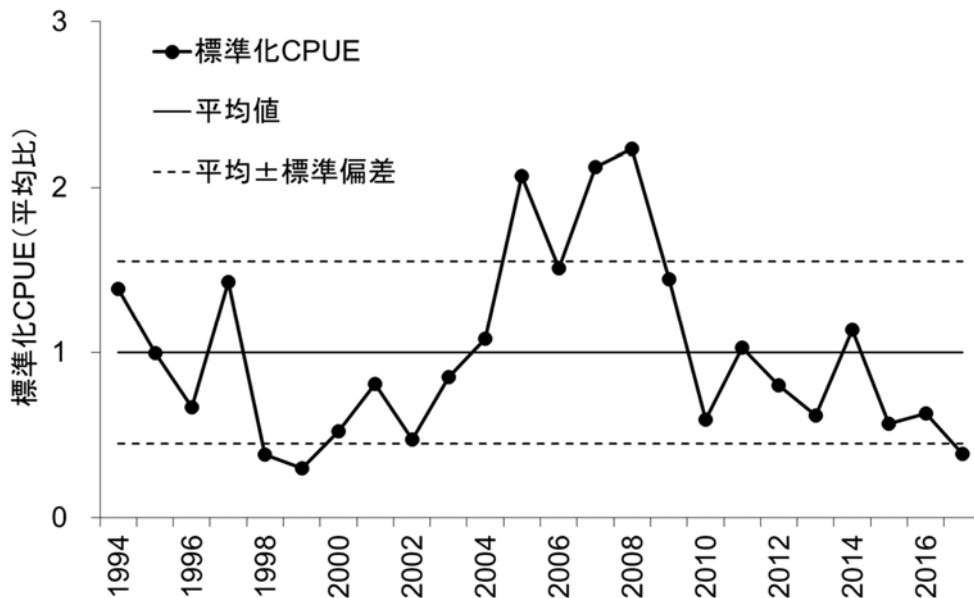
4

資源量と漁獲割合の推移



2018年 資源量:205万トン

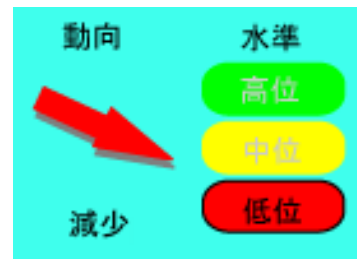
サンマの漁獲割合の推移(2003~2017年)
 漁獲割合は(各国のサンマ漁獲量の合計値/日本の調査船調査による推定資源量)として求めた。



サンマの標準化CPUEの推移(計算を実施した1994~2017年のみ)
 日本のさんま棒受網漁船の漁獲資料を基に解析した。

資源評価のポイント

- 資源水準
高位と中位、および中位と低位の境界
資源量指標値の平均±標準偏差
- 資源動向
過去5年の資源量の推移
- 資源水準は低位、動向は減少



※従来の基準(2018年度の資源評価)を基に判断。

7

管理方策

管理目標	NPFCでは、2019年中に暫定的な資源評価を完了することで合意している。
資源の状態	日本の調査船調査結果(推定資源量)及び漁獲情報(標準化CPUE)では、共に2005年以降減少し、2010年以降は中位水準となっていたが、2018年には低位になった。
管理措置	NPFCでは、新たな保存管理措置が実施されるまで漁船の許可隻数の急激な増加を抑制すること等が合意されているほか、小型魚の保護が奨励されている。 我が国では、許可制度、操業期間の設定、TAC制度等が行われている。

8